

* 第2回紙芝居講座 in クアラルンプール

日程：2013年11月20日ー11月21日

会場：マラヤ大学芸術社会科学部メインホール

主催：MBBY (IBBY マレーシア支部)

講師：酒井京子、野坂悦子

参加者：約50名

テーマ：一日目「紙芝居とはなにか?」「演じてみよう」

二日目「紙芝居の創り方」



IBBY 会長・MBBY 会長のレザさん、副会長のシディンさん (大学教授)、事務局のアリマさん (元図書館員)、現クアラルンプール市図書館員のシャムさんたちが、昨年にも増して力を注ぎ、実現した講座です。作家、画家、編集者、政府関係者 (教育省のナショナル・ブック・カウンシル代表)、編集者、教師、サイエンス・コミュニケーター、大学教授、大学院生をまえに、実践的な講座を行いました。「紙芝居を創りたい」という現地の思いに応えるため、2日目には起承転結の「転」をどう創るか、マレーシア民話を素材に、参加者からアイデアを求めました。講座の終わりには、自作を持ち込む作家も数名現われ、文化としての紙芝居をどう創るのか、もっと知りたいという強い意欲が伝わってきました。講座参加者のうち、ほぼ半数の24名がその場で紙芝居文化の会の海外会員になったことも、大きな収穫です。

* 紙芝居『こねこのしろちゃん』が、フランスで推薦図書に！

『こねこのしろちゃん』(堀尾青史脚本、和歌山静子絵)の、童心社によるフランス語版が、フランス教育省の推薦を受けて、2013年度「学校の文学作品 La littérature à l'école」リストに選ばれました！



今回の快挙は、2012年に紙芝居文化の会が、パリでヨーロッパ紙芝居会議を開いたことと無縁ではありません。この推薦図書 (幼児向け) に選ばれたのは、全部で251点。その中で『こねこのしろちゃん』が今回、日本の紙芝居として初めて選ばれたのです。推薦図書の情報は、フランス教育省から各地方の教育区を通して幼稚園などに送られます。様々な肌の色の子どもたちがいるフランスでも、「違いをどう受け入れるか」をユーモラスに描いた『こねこのしろちゃん』は、日々愛され、演じられることでしょう。